

研究紀要

くらしをひらく子ども

—— 自ら人との関わりを豊かにしていく授業（2年次） ——

1999

島根大学教育学部附属小学校

春，躍動感と生命感あふれる校庭

—序にかえて—

寒く，厳しく，子どもたちを室内に長い間閉じこめていた冬。新年度の始業式が終わり，入学式が終わり，真新しい制服に身を包まれた，輝かんばかりの新入生を迎えた春。

子どもたちは春とともに中庭，前庭などの身近な遊び場である校庭へ元気よく飛び出していく。春の柔らかい日差しの下で，のびのびと生き生きと行動を開始している。

一所懸命に鉄棒の逆上がり，仲良しの友だちと挑戦している子。平行棒に体をのせて，バランスをとりながら，危なっかしく移動し，渡り終えて，「すごいすごい」と言って讃え合っている子どもたち。長い雲梯にぶら下がって，端から端まで手の平の痛いことを我慢して移動し，渡り終えて熱くなった手のひらに息を吹きかけている子どもたち。棒登りに手と足をたくみに使って，体をぐいぐい引き上げていく子。それを見守るように眺めている友だち。ぶら下がりシーソーで楽しそうに歓声をあげながら，交互に空中へ上がり下がりしている二人の子。

このように春の中庭には，冬の間には見られなかった小学校の生き生きした光景が私の足をしばしば止める。子どもたちが友だちと一緒に体をかき，声を出して活動する姿は大人を喜ばせ，春の小学校の情景の躍動感と生命感あふれる一時である。小学校の活力と希望が目に見えてくる。

前庭には池とわずかな木々が植わり，雑草が生えてくる。池の水がぬるみ，水中をよく見ると小さな魚が群をなして泳いでいる。春の陽気と小動物が子どもたちを水辺へと近づけ，友だちどうし何やら話し合っている。きっと水中にいる生き物に興味を示して，話をはずませているようだ。子どもたちは，できれば水中に入って，魚と遊びたいのであろう。雑草の中には満開のタンポポの花があちらこちらで子どもたちを誘っている。数名の子どもたちはすでに，タンポポの花を摘んだ束を大事そうに手でしっかりと握っている。春を手でつかみ，体で感じている。また，ある子どもは春の陽気に活動を開始し始めたトカゲの子どもを捕まえて虫かごに入れている。それを友だちにわいわい自慢そうに見せている。

こんな校庭の子どもたちの生き生きとエネルギーあふれる姿が，本来の子どもの学びと交流の姿である。本校の研究テーマ「くらしをひろく子ども」には，子どものくらしの基盤を豊かなものにし，子どものたくましい追求とその中に見られる子ども同士の豊かな関わりが形成されることを願っている。春の校庭での子どもの姿には，「くらしをひろく子ども」の原型がある。この研究紀要から，春の校庭に見られる子どもたちの，躍動感と生命感あふれるエネルギーを感じ取っていただけることを願っています。

平成11年6月10日

学校長 山下 晃 功

目 次

序にかえて	……………	学校長 山下 晃 功	
I	くらしをひらく子ども	……………	1
	—自ら人との関わりを豊かにしていく授業（2年次）—		
II	教科における授業の構想と実践		
国語科	表現の価値を追求する国語科学習	……………	11
	—言葉への自覚的な関わりを深めるために—		
社会科	子どもが自分のくらしに問いかける社会科学習	……………	28
算数科	数理を追求する楽しさを感じる学習	……………	40
理科	子どもが自ら自然を探究していく理科学習	……………	57
	—多様性が生きる問題解決—		
生活科	子どものくらしが広がる生活科学習	……………	74
	—思いや願いをもち、活動に没頭する姿を求めて—		
音楽科	子どもが感じたことを豊かに表現していく学習	……………	86
	—一人ひとりの創造力を高めていくために—		
図工科	自分の表し方を楽しみながら追求する図画工作科学習	……………	98
	—一人ひとりの思いや願いを生かして—		
家庭科	子どもが自らくらしを豊かにつくっていく学習	……………	110
	—人や物との関わりに目を向けて—		
体育科	子どもが運動の楽しさを追求する体育学習	……………	117
	—仲間とともに運動する姿を求めて—		
なかよし	子どもが互いにくらしを高める「なかよし」の活動	……………	129
特殊教育	友だちと関わりながら生き生きと活動する子ども	……………	135
保健	健康について考えられる場面を大切に活動	……………	147
	—PART2 定期健康診断、諸検査、発育測定取り組みから—		
おわりに	……………	副校長 花谷 耕 三	
研究同人			

I 総論

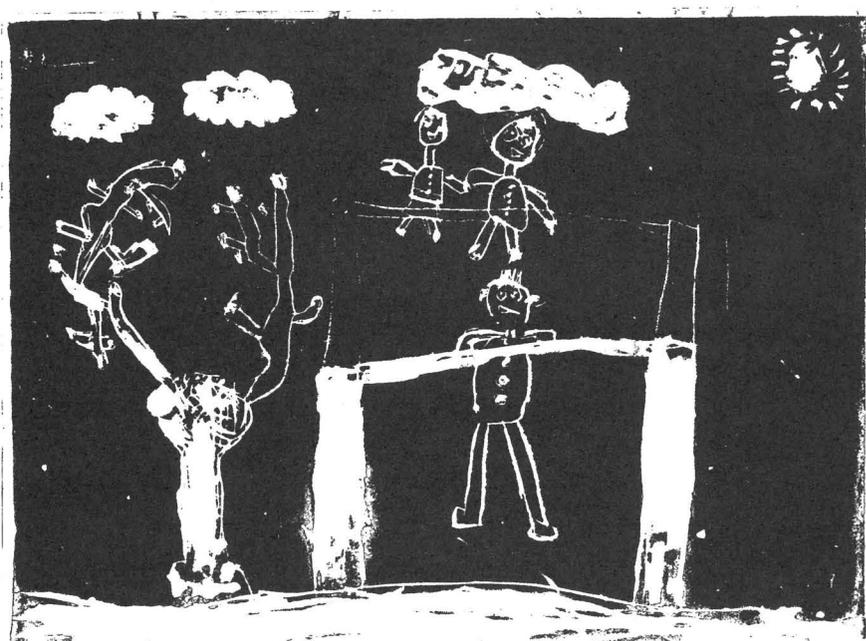
くらしをひらく子ども

— 自ら人との関わりを豊かにしていく授業（2年次） —



「かゆくてたまらない七面鳥」 4年 T・A

II 教科における授業の構想と実践



「鉄ぼうであそんだよ」 2年 M・T

お わ り に

子どもの内なる可能性を引き出し、主体的に考え行動する子どもの育成をめざして数十年の月日が流れました。この間「子どもは生まれながらにして追求する存在であり、開かれた存在である。」という子ども観とほんものの教育に迫りたいという願いのもとに、「全校活動」や「ちどりの日」「子どもがつくる授業」など様々な教育活動を実践研究して参りました。

平成5年度からは「くらしをひらく子ども」を研究主題に、社会の変化に主体的に対応し、自らの力でくらしを切り拓いていくことのできる心豊かな子どもの育成をめざしてきました。この実践を通してわたしたちは、「関心や意欲をもってくらすことができる子ども」「豊かに自己を表現できる子ども」「確かな判断力を持ち、自立できる子ども」、そして「自ら人との関わりを求め、関わりを豊かにすることができる子ども」を願ってきました。

この研究紀要は、こうしたわたしたちの願いのもとに、昨年度のサブテーマ「自ら人との関わりを豊かにしていく授業」の実践をまとめたものです。わたしたちの願いと提案を受け止めていただければ大変嬉しく思います。

さて、平成14年度からの新学習指導要領の実施を前に、今日「生きる力」の育成とともに、「総合的な学習の時間」への対応が求められています。わたしたちは、このことを真摯に受け止め、学校教育活動の中でも特に教育課程の見直しとともに、「総合的な学習の時間」のあり方についても研究を進めているところです。

次は、「堀川めぐり」と題した子どもの日記です。

松江に住んでいるのに、松江城の周辺をぜんぜんゆっくり見たことがなかった。雪がとけて、日ざしはあったかかったけど、風はととてもつめたかった。船頭さんは、とても楽しくて優しい人だった。堀川めぐりの船を動かすことで、松江以外の人、松江の人、松江をよく知ってもらおうという目的だけでなく、堀川をきれいに、周囲の下水道を整備し、ゴミをなくし、サギ等の動物が住みやすいよう、自然を大切にしていることがよく分かった。これだけむずかしい船のそうじゅうができるお年寄りの人たちが生き生きと働いておられ、いろいろなところで活躍しておられるんだなと思った。(4年K. M)

この子どもは、船頭さんとの出会いによって、お年寄りのすばらしい生き方にふれるとともに、堀川めぐりが松江を知ってもらうためだけでなく、自然を大切にしていくことにもつながっていることに気付いています。堀川めぐりを通して、そこで働く人の姿や周りの自然等からこの子どもの想像力に富んだ豊かな感性を感じ取ることができます。

わたしたちは、「総合的な学習の時間」を考えていく時、子どもたちがくらしの中で身近な自然や社会、文化に興味・関心を持ち、その子らしい疑問や課題を見出だし解決していく過程、言い換えれば子ども一人ひとりの学びが重要であると考えています。

今年度は、「より豊かな学びの姿を求めて」をサブテーマに、子どもが自然や社会、文化に進んで働きかけ、自分のくらしをより豊かにしていくために必要な体験を広げることを意図して創造した「ちどりのいきいきタイム」の授業を通して、わたしたちの教育実践に対する考え方を提案していきたいと考えています。ご参会の諸先生方と新しい教育の方向を共に語る中で、忌憚のないご意見、ご批判をいただき、本研究をさらに深めていきたいと願っております。

今後とも本校の研究に温かいご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

平成11年6月10日

副校長 花谷耕三

研究同人

(平成10年度・11年度)

学 校 長	山 下 晃 功
副 校 長	花 谷 耕 三
教 頭	赤 木 直 行
研修部長	和 泉 浩 行

国 語	瀧 山 哲 朗 金 山 剛 志	昌 子 佳 広
社 会	赤 木 直 行 吉 崎 朗	奥 村 忠 孝 新 田 恵
算 数	山 崎 敦 史 立 石 浩	川 上 宣 久
理 科	和 泉 浩 行 原 啓 一 朗	高 橋 泰 道 山 本 美 幸 (平成11年度)
生 活	山 崎 敦 史 (平成11年度) 梶 谷 朱 美 立 石 浩	奥 村 忠 孝 瀧 山 哲 朗 金 山 剛 志
音 楽	中 村 治 子	中 沢 昌 彦
図 工	金 築 亨	大 野 寛 人
家 庭	平 井 早 苗	
体 育	中 筋 幸 夫 梶 谷 朱 美	藏 敷 真 吾 川 角 朋 之 (平成11年度)
なかよし	平 井 早 苗 奥 村 忠 孝 藏 敷 真 吾 昌 子 佳 広	和 泉 浩 行 高 橋 泰 道 立 石 浩 原 啓 一 朗
特 殊	西 島 博 天 野 千 里 道 前 正 (平成11年度)	奈良井 正 山 本 勉 常 松 祐 子 (平成11年度)
保 健	倉 石 美津子	

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

↓ 複式学級の低学年を表す
 60C₂ C:児童 T:教師
 ↑ ↑ 児童を表す番号
 その時間の発言の通し番号

平成11年6月10日 印刷

平成11年6月10日 発行

発行所 島根大学教育学部附属小学校
〒690-0882 松江市大輪町416-4 (TEL 21-2471)
URL <http://www.chidori.shimane-u.ac.jp>
e-mail chidori@edu.shimane-u.ac.jp

印刷所 (有)木次印刷
飯石郡三刀屋町1635 (TEL 0854-45-2515)
